

虫・鳥・動物

を見る

オオイタドリの花と
ドロバチ科の仲間



アイヌ語名は()内に

✿ チョウの食草 – 幼虫の決まったメニュー



エゾイラクサ（モセ）



セイチゅう　　みつ　　す　　ようちゅう
チョウは成虫になると蜜などを吸いますが、幼虫
の時には草や木の葉を食べます。草なら食草、木なら
食樹と呼びます。食草・食樹は何でもいいわけでは
なく、チョウの種類によってメニューが決められ
ています。

モンキチョウはマメ科の仲間（クサフジやアカツ
メクサ）と決まっていますが、農作物や外来種でも
いいという幅があります。

一方、イラクサの仲間を食草とするアカマダラな
どは、イラクサがなくなってしまえばもう暮らして
いけなくなります。

エゾイラクサなどイラクサの仲間を食草とするチョウ



アカマダラ



クジャクチョウ



コヒオドシ

標本：吉原利之

✿ 蜜を吸いにくる虫

多くの昆虫にとって、花は蜜を吸うための食堂です。
その代わり、虫の方はご存じのように花粉を運びます。
蜜と雌しべ・雄しべがある場所にマークをついている
ノハナショウブのような花もあり、花の奥の方に蜜を出し、
もぐり込まないと吸えないようにしているキツリフ
ネのような花もあります。

ところがマルハナバチの中には、キツリフネの花の外
に穴を開け、蜜だけいただくものもいるということです。



ノハナショウブの花。黄色い着陸用「ガイドマーク」



アヤメで蜜を吸うハチの仲間



アヤメの雌しべと雄しべ



キツリフネ。花の奥に蜜がある

❀ ストーブのある休息所? ❀



ザゼンソウ。中の固まりが花の集まり（肉穗花序）で、これが発熱するのだという

ザゼンソウのフード内にある固まり。これは雄しべも雌しべもある花の集まりなのですが、これが化学反応によって熱を出しているのだといいます。

ザゼンソウは早春、まだ寒いころに咲きます。このころでは虫たちもあまり元気ではありません。少しでも暖まって元気になり、花粉を運んでもらおうということなのでしょうか。

❀ 鳥の巣作りに利用される草 ❀

タンチョウはヨシやスゲ類のあるところで、枯れた茎を利用して巣作りします。アイヌ語名サロルンチリまたはサロルンカムイは、ヨシ原の鳥、ヨシ原の神という意味だといいます。またコヨシキリやオオヨシキリは、ヨシなどのイネ科植物の葉や茎を使った巣を作ります。



ヨブスマソウ（ワッカクッタ）でさえずるコヨシキリ



ヨシ原で営巣するタンチョウ
(サロルンチリ。サロルンカムイ)



タンチョウのつがい

❀ 餌となる草 ❀



エゾシカ(ユク)(左)と好物のエゾノリュウキンカ(ブイ)(右)。草の他、樹皮も食べる



冬、オオヨモギ(ノヤ)の実をついぱむウソ

草の葉や茎は、草食動物の餌となっています。エゾシカはササやフキ、エゾノリュウキンカやオオイタドリなどの葉や茎を食べます。

また、冬ほとんどの植物が葉を落とし、枯れてしまった時、枯れてもまだ実(タネ)をついているオオヨモギ(ノヤ)は、冬を越す小鳥の貴重な餌となります。

参考文献

- 「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995
- 「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989
- 「日本の野生植物 草本Ⅰ～Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981、1982
- 「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998
- 「新版 北海道の花(増補版)」鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

- 「花のおもしろフィールド図鑑 春」ピッキオ 実業之日本社 2001
- 「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
- 「山渓カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と渓谷社 1985(1995 2版21刷)
- 「日本動物大百科2 哺乳類II」日高敏隆 監修 平凡社 1996
- 「しれとこらいぶらりー② 知床の哺乳類！」斜里町立知床博物館編 北海道新聞社 2000
- 「タンチョウそのすべて」正富宏之 北海道新聞社 2000